

中部日本ニュース

シネスコ版

名取版 No. 440 100 名目 泰用 誕生 - 慶知 - 78 日 (本編トプへ追加)
 北海道 No. 190 札幌子川 - 96 日 - (本編トプへ追加)
 高知新 No. 224 本編同 No. 440 37.6.22
 新愛媛 No. 103

河口新 No. 116 水の競う - 長河 - 107 日 (本編トプへ追加)

一、タクシーGメン"乗り出す

— 東京

スピード時代の要請に応じてこの一、二年間で東京のタクシーは二万台を越える急ピッチの倍増ぶりです。それと共に、乗車拒否などの違反行為を行う不良タクシー運転手が目に余る様になってきました。各タクシー会社の社長さんたちはその対策に頭を悩ませ、夜の現場に視察に出たり、運転手養成に力を注いでいます。一方、不良タクシーの追放の役目を一手に引き受けているのが自動車指導委員会の"タクシーGメン"たちです。昼夜、都内をパトロールして乗車拒否、エントツ、乗り合いなどの違反行為をテ、発しています。しかし急増するタクシーと足りない運転手のアンバランスが不良タクシー問題の大きな原因となっております。

二、腕ぶし日本一

— 東京

大相撲名古屋場所にさきがけて、めずらしい腕角力大会が東京郊外のさる公民館で開催されました。腕に自慢のサラリーマン力士や学生力士。遠くは大阪、仙台あたりからもかけつけるという熱心さ、四角な土俵上で大相撲そこのけの白熱戦をてんかいました。

アイモ風土記

一、"たら汁"の村

— 富山

新潟、富山の県境前に日本海、背後に飛騨山系をひかえた越中宮崎。ここは戦国の昔から自然の要塞として常に激戦地にさらされ、その都度ここに住む人たちはここでとれる鱈をみつと巧みに生きのびたといわれています。加賀藩時代すでに鱈の名産地であった宮崎は、以来鱈場を唯一の財産として受けついできました。

深海魚の漁ゆえにハエナワ、漁というこ独特の漁法が今日でもこの村における生活の手段であり、その伝統に安住するがゆえにいつしかこの村も一介の貧村になっていたので。こうした中でこの村の名物"たら汁"が昨今のレジャーブームにのって村は急にこの"たら汁"目当て

におしかける観光客で活気づきました。

この"たら汁"はもともと漁師が昼食にたべていたもの。村の漁協では漁師がとってきた鱈を組合で買い上げ浜に急造したテントの下で観光客に喰べさせています。沿岸漁業不振の中で鱈の村に生まれた"たら汁"という生活の知恵。だが一たび海が荒れば漁は出来ない宿命は余りにもきびしいものといえましょう。

637日

316日

82日

241日